データで見る 南山城学園 2018

社会福祉法人 南山城学園

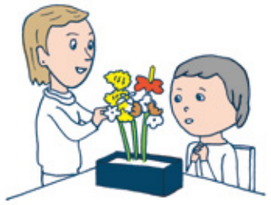
75件
障害のある方を支援して就職につながった人数

障害者就業・生活支援センターはびねすでは、
知的・精神・身体障害がある方、難病の方を対象に
就労へのステップアップをサポートしています。

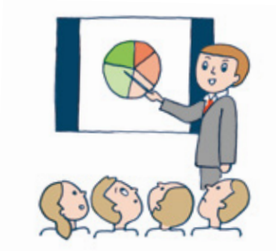
377人
新卒エントリー数

若者人口が減少傾向により、
様々な企業が人材確保に取り組む中、
法人の採用計画において
新卒のエントリーから内定へつながる確率は
高くなってきています。

989人
ボランティア活動をしてくださった人数



地域の方からは年間1000名近くの方に
サポートいただいています。
これからも職員だけではできないことを
地域の皆様と共に取り組んでいきます。



54回
学校や講演会場に講師派遣した回数

「福祉の魅力」を知っていただくために、
職員研修や大学の講義に講師を派遣しています。

32人
実習・インターンシップの受け入れ人数

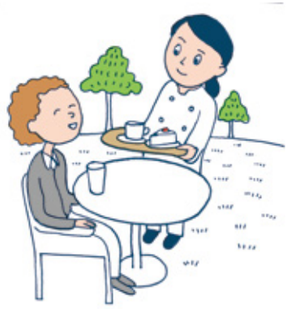
保育士や社会福祉士、
教員になるために必要な実習や
インターンシップを積極的に受け入れ、
福祉の現場の魅力を伝えています。

2332人
見学やイベントを通じて施設を訪れた人数

地域の皆様にとって福祉施設が
「身近な存在」になることを願って、
積極的にイベントや見学、施設開放などに
取り組んでいます。

91回
地域とのつながりを深めるイベントの回数

地域とのつながりを深めるため、
毎年多くのイベントを開催。
また地域のイベントに利用者様と参加し、
福祉の理解を促進しています。



244回
法人内で開催した職員研修の数

南山城学園では、
職員の質の向上を目指し、
積極的に職員向けの研修を
開催しています。

24491人
ぷちぽんとkitchen+farm、カフェぷらんたんを利用したお客様の数

地域と障害のある方の
架け橋となることを願って、
敷地内にカフェを運営しています。

平成30年度 事業報告書　発行:社会福祉法人 南山城学園 〒610-0111京都府城陽市富野狼谷2-1 TEL.0774-52-0425　http://www.minamiyamashiro.com

社会福祉法人 南山城学園

ANNUAL REPORT
事業報告書 2018

MINAMI YAMASHIRO GAKUEN

よりそう力

地域の皆様とともに

minami yamashiro gakuen

2018.4-2019.3

子ども食堂の実施

城陽エリア・醍醐エリアで、子どもの居場所づくりとして「ダイニングあんさんぶる」を企画・運営しています。月1回、地域のボランティアの方とともに開催しています。

地域と仕事 イノベーションフォーラム

複雑化、多様化する地域課題解決のために法人が取り組む活動を通して、“福祉×地域”の協働を学生の皆様にお伝えし、議論するフォーラムです。平成30(2018)年度は龍谷大学、京都産業大学、大谷大学にて開催しました。

地域で働く障害者の交流会

星和電機株式会社と「はぴねす」が主催で、地域で働く障害者の余暇支援活動として、ボウリングやリフレッシュセミナーなどの交流会を実施しました。

子どもたちとの交流・福祉教育

「翼」では、城陽市立富野小学校での講演や城陽市立南城陽中学校の吹奏楽部の皆様との交流を、「和」「煌」では清仁保育園との交流会を実施。「輝」では、京都市立春日野小学校との交流会や、京都市立辰巳保育所園児との芋掘りを実施しました。

福祉業界研究セミナーを実施

きょうと福祉人材育成上位認証事業所に認定されている他法人とともに、福祉業界の魅力を伝える業界研究セミナーを企画・運営しました。

地域に開かれたお祭り

城陽エリアの「彩雲祭」では、京都府立城陽高校のチアリーディング、福祉避難所の段ボールベッド展示、城陽市立富野小学校の児童の作品展示などを約700名が楽しみました。また、笹森理絵氏による発達障害セミナーも同時開催しました。

地域のつどいで介護予防指導

富野校区にお住まいの高齢の方を対象に開催される「健康料理のつどい」に、「煌」の療法士が毎年訪問しています。お食事の前に、療法士と一緒に自宅で簡単にできる運動や脳トレ体操を行っています。

醍醐エリアの「和光祭」には約1,000名が来場し、京都市立春日野小学校のチアリーディング、ゴスペルフラダンス、大道芸、災害時用非常食の試食、アロマオイルを使用したハンドマッサージなどで大いに盛り上がりました。

カフェを近隣住民のコミュニティ活性化の一助に

地域の皆様に福祉施設を身近に感じてもらえるよう、また、子育て世代のコミュニティづくりの一助となるよう、「凛」のぷちぽんとkitchen+farmでは親子パン教室や地元の緑化活動、マルシェなどを行っています。

平成30(2018)年7月にオープンしたカフェさぴゅいえでは、定休日を利用し、絵本カフェを開催しています。

ガイドヘルパーの資格講座を開催

福祉人材の育成のため、京都光華女子大学、大谷大学、城陽市、宇治市にてガイドヘルパー講座を実施。計114名の方が資格を取得し、地域で活躍しています。

大学で福祉の魅力を講義

若手職員で構成されているGAKUEN魅力発信チームメンバーが福祉現場で働くやりがいや魅力を大学の講義で講演しました。

未就学児のための親子セミナー

親子で参加できる体験型セミナー「手作りおやつ教室」「親子で楽しくコンディショニング教室」を年6回実施。計24名の参加がありました。

NEXT Vision2025

ネクストビジョン2025

南山城学園は、５０周年を迎えた２０１５年に策定した「ネクストビジョン２０２５」で、法人理念を実現するためにめざすべき方向を示した「長期ビジョン２０２５」と、２０２０年3月までの5年間で具体化する行動目標「中期経営計画２０２０」を掲げ、これに沿ってさまざまな活動を展開しています。２０１８年度に取り組んだ内容についてご報告します。

長期ビジョン2025

— めざすべき方向—

Quality

暮らしの質の向上

利用者様の一人ひとりの尊厳を守り、幸福を追求すること。それが私たちの使命です。さらに利用者様はもちろんのこと、地域の皆様にも、末永く自分らしい生き方ができるように、福祉サービスを提供していきます。

Resource

経営資源の有効活用

私たちには５０年培ってきたノウハウや人材があります。それらを活用し、地域福祉の充実・発展を通じて、社会に還元していきます。地域のニーズにパイオニア精神で取り組み、共生・共助の地域づくりに貢献していきます。

Creation

創造性の発揮

いつでもだれでも安心して利用できる福祉サービスを創造すること。これも私たちの使命です。これから先の時代が求める福祉課題に対応し、福祉を必要とするすべての人を対象に、新しい地域包括ケアを創り上げていきます。

中期経営計画2020

— 2015年4月～2020年3月の５ヵ年計画—

1 障害者の地域移行

入所施設利用者の地域移行促進のため、京都府南部地域でグループホームを整備し、入居者数を80名にします。

2 高齢障害者の居住安定

高齢障害者の居住安定のため、京都府南部地域で地域密着型特別養護老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅など居住施設を2施設開設します。

3 高齢者福祉の充実

地域包括ケアシステムを推進するため、介護老人保健施設を在宅強化型にするとともに、訪問リハビリテーションなど在宅支援を充実します。

4 地域コミュニティの活性化

法人が有する地域交流スペースを積極的に地域に開放します。また自治会等の地域活動との連携を強化し、地域の福祉課題に取り組みます。

5 福祉教育・啓発の推進

障害者や高齢者への理解を促進するため、学校と連携した出前講座や啓発広報活動を実施し、人権尊重の意識の醸成につとめ、福祉の街づくりに貢献します。

6 魅力ある職場づくり

風通しのよい組織風土の醸成や事業所内保育所の開設など、職場環境の整備に取り組みます。あわせて人材育成の仕組みを強化し、働きがいのある職場づくりを通じて人材確保に努めます。

7 災害時の対応

福祉避難所設置訓練を継続して実施し、大規模災害発生時には被災地への職員派遣や災害時要配慮者の受け入れなど、復旧復興活動の支援をおこないます。

8 保育・子育て支援事業の展開

京都市内で平成27年4月より開設した、小規模保育所の充実発展とともに、認定こども園を新たに開設します。あわせて地域子育て支援拠点事業を実施し、「地域の子育て・親育て」を支援します。

9 生活困窮者への支援

生活困窮者が社会的自立を果たせるよう、さまざまな中間的就労の場を提供し、一般就労への移行を支援します。

10 研究と実践の連係

強度行動障害や認知症のある人たちへの支援について、大学等と連携して科学的根拠に基づく研究と実践をおこないます。また、独自の研修プログラムを開発し、他法人の職員を受け入れ、実践的な研修を実施します。

磯（いそ） 彰格（あきただ） 理事長インタビュー

より一層信頼される社会福祉法人を目指して

（改正社会福祉法に基づくガバナンスの強化）

平成29（2017）年4月に新しい社会福祉法が施行されて以来、当法人としても組織の見直しや会計監査人による法定監査など、経営組織としてのガバナンスの強化を行ってまいりました。併せて、「地域社会において必要な社会福祉法人」として、各制度におけるサービスのみならず、地域に寄り添い、地域ニーズを把握し、地域とともに歩むために、地元自治会との合同防災訓練や子どもの居場所づくりを進めています。

今後も「地域に暮らす人たちが共に支え合う」共生社会の実現に向けて、法人機能を積極的に活用した事業を展開してまいります。

カフェ３店舗を地域の居場所として展開

4 地域コミュニティの活性化

当法人は、城陽・醍醐・宇治に3つのカフェをオープンしています。ランチメニューを中心に、自農園で栽培した野菜を中心に低農薬で安全な食材を提供しています。それぞれのカフェでは、地域住民と利用者様との交流だけではなく、地域の住民同士が語らい育み合える場として、「絵本カフェ」や「パン教室」などを行っています。地域のコミュニティを活性化させる役割を担っていきます。

利用者様の幸福追求のために、実践研究発表をより幅広く

10 研究と実践の連係

「利用者様の幸福を追求する」、これは当法人の中核をなす理念です。「幸福とは何か？」この問いに向き合い続けることは、人間の根幹である“より良く生きる”を追求することにつながります。30年来法人内の施設で開催してきた実践研究発表会を初めて外部会場にて開催しました。より幅広い分野の専門家や学生など多くの方からご意見やご協力を得ながらさらに追求していきます。

今　後

令和元（2019）年度は、中期経営計画2020の計画施行後4年を経過し、いよいよ集大成の年度です。法人の内部環境・外部環境を分析し、地域の皆様から期待されている役割をしっかり果たすべく、次期の「中期経営計画2025」の策定を進めていきます。

About us

基本理念

01 利用者様の尊厳を守り、幸福を追求する。

私たちは利用者様の人としての尊厳を重んじ、一人ひとりのかけがえのない人生に寄り添い、ともに幸福を追求します。

02 地域のニーズにパイオニア精神で取り組み、「共生・共助」の地域づくりに貢献する。

私たちは、社会福祉法人として培ってきた専門性やノウハウを最大限に活かし、
地域社会における福祉ニーズに率先して取り組み、課題解決に努めます。
また、すべての方が住み慣れた地域で互いに寄り添いながら暮らせる福祉社会の実現に貢献します。

03 いつでも誰もが安心して利用できる福祉サービスを創造する。

一人ひとりの特性に応じた適切なサービスを提供するため、さまざまな事業を展開し、
安心して利用できる新たな福祉サービスを創造します。

7つの誓い
～職員がめざすべき行動基準～

1 質の向上に向けた意欲と実践

私は、利用者様の幸福のため、利用者ニーズに即応して、結果を出せるよう自らが行動を起こします。

2 ルールと正確性の重視

私は、利用者様、職員など関わるすべての人々の安心・安全のため、ルールを守り正確性を重視します。

3 利用者理解と個別サービスの追求

私は、利用者様の尊厳を守り、利用者様の理解に努め、質の高い個別サービスを追求します。

4 セルフイメージの向上と影響力

私は、社会福祉の一端を担う者としての自覚と自信を持ち、人々に前向きな影響をもたらします。

5 職員の支援と育成

私は、職員として、ともに学び、成長することを、互いの喜び・楽しみとします。

6 チームワークとリーダーシップ

私は、チームの和を大切にしつつ、立場や状況にふさわしいリーダーシップを発揮します。

7 専門性の向上と活用

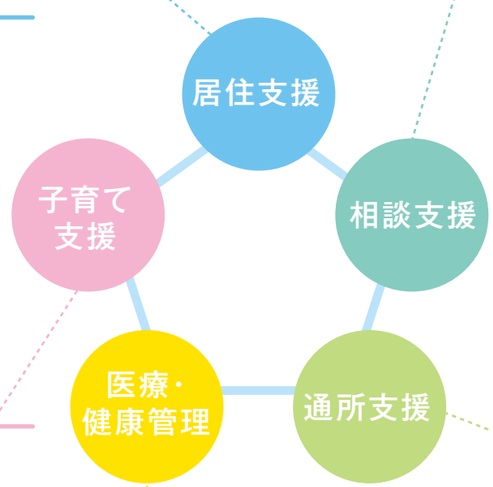
私は、職務に必要な専門的、組織的能力を身につけ、発展させ、活用します。

法人概要

事業内容	・第一種・第二種社会福祉事業（障害・高齢・保育） ・公益事業
設立	昭和40（1965）年 2月
代表者	理事長　磯 彰格
職員数	703名［平成31（2019）年3月31日現在］

経常収入	36億6700万円［平成30（2018）年度］
事業所	京都府城陽市／宇治市 ／京都市伏見区・中京区・下京区ほか 障害30ヶ所／高齢3ヶ所／保育園5ヶ所 ［平成31（2019）年新規開設含む］

事業領域



自分らしく幸せに暮らせるよう、生活全般をサポート

［対象］主に知的障害のある方や介護保険適用の高齢の方

障害者支援施設 円（まどか）
障害者支援施設 和（なごみ）
障害者支援施設 魁（さきがけ）
障害者支援施設 翼（つばさ）
障害者支援施設 凛（りん）
障害者支援施設 光（ひかり）
障害者支援施設 輝（かがやき）
知的障害者グループホーム
（観音堂ホーム 他）
宇治小倉ホーム
ショートステイ ふらっぷ
［平成31（2019）年 4月～］
介護老人保健施設 煌（きらめき）

住み慣れた地域での暮らしを続けられるよう、相談に対応

［対象］障害のある方や高齢の方、またご家族の方

山城北圏域障害者総合相談支援センター うぃる
障害児（者）地域療育支援センター うぃる
障害者生活支援センター はーもにぃ
障害者支援センター じゃすと
障害者就業・生活支援センター はぴねす
京都府地域生活定着支援センター ふぃっと
障害児（者）相談支援センター りーふ
障害児（者）相談支援センター うぃっしゅ
［平成31（2019）年 4月～］
若年者等就労支援拠点 サザン京都
居宅介護支援事業所 すまいる

子どもたちの主体性を育む保育

［対象］乳幼児

もりの詩保育園
小規模保育事業 かぜの詩保育園
小規模保育事業 そらの詩保育園
小規模保育事業 はなの詩保育園
小規模保育事業 るりの詩保育園
［令和元（2019）年 5月～］

医療と福祉の連携により、安心・安全をサポート

［対象］主に施設利用者様

南山城学園診療所
和光診療所

多様なニーズを受け止め、充実した日中活動の場を提供

［対象］地域で暮らす障害のある方や高齢の方

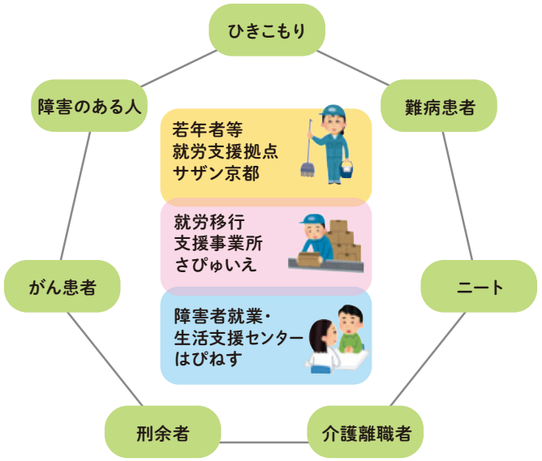
知的障害者デイサービスセンター あっぷ
身体障害者デイサービスセンター すいんぐ
障害者就労移行支援事業所 魁（さきがけ）
就労移行支援事業所 さぴゅいえ
障害者デイサービスセンター わこう
児童日中一時支援事業所 ちぇりー
デイセンター ふらっぷ
［平成31（2019）年 4月～］
高齢者デイサービスセンター すまいる
通所リハビリテーション 煌（きらめき）

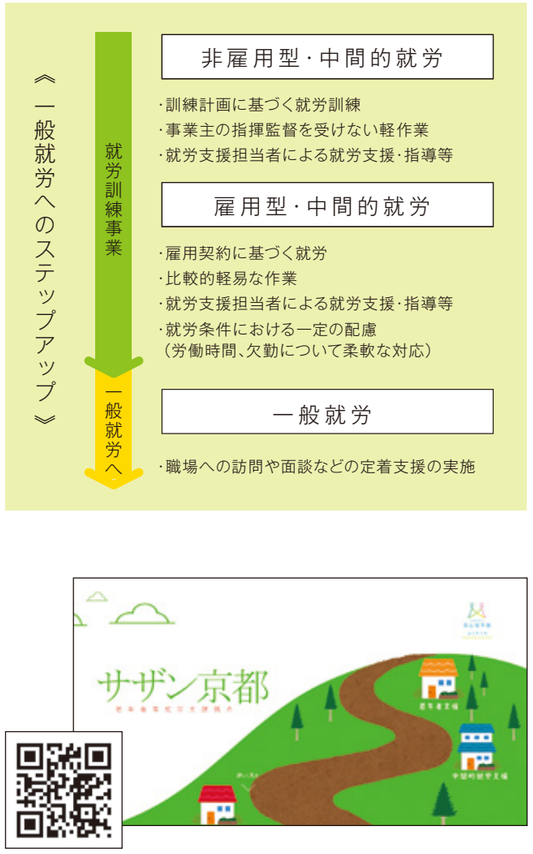
法人全体の取り組み①

多様化する就労をサポート

就労への道をつなげる仕組みをつくる

近年、「働きづらさ」を抱える人たちは、障害のある人に留まらず、ひきこもりやニート、最近では刑余者、難病患者、介護離職者など、多様な人たちに広がっています。そこで、当法人では、「就労移行支援事業所さぴゅいえ」と「障害者就業・生活支援センターはぴねす」、「若年者等就労支援拠点サザン京都」の連携を一層強化し、「働きづらさ」のある就労困難者を切れ目なく支援していくこととしました。複雑で多様化する就労困難を抱える人たちへ、制度を超えて重層的に支援することにより、その人に合ったサポートを展開していきます。





サザン京都ホームページ（http://southernkyoto.com）

自立・就労支援コーディネーター業務

京都府南部地域（山城地域・乙訓地域）の各市町村にお住まいの方で、支援団体などの支援を受けて、少しずつ社会と関わり始めた方々を対象としています。今後は、山城地域ひきこもり支援会「SHY（シャイ）会」（S：支援、H：ひきこもり、Y：山城地域）を中心に、さらなる連携強化を図ります。

生活困窮者等就労準備支援と中間的就労

65歳未満の生活保護を受給されている方をはじめ、現在、生活に困窮されている方を対象に、一般就労に向けた準備と訓練を行っています。職に就くことで安定した収入を得て、経済的な困窮から抜け出すことを目指しています。
また、平成26（2014）年から取り組んできた中間的就労支援と連携し、一般就労に向けた多角的な支援に取り組んでいます。

地域若者サポートステーション京都南（厚生労働省委託事業）

学校を卒業・中退後、または就職後のブランクがあり、働くことに踏み出したい15歳から39歳までの方、そのご家族・保護者の方を対象としています（学校在学中の方は除く）。「まずは一歩踏み出してほしい」、当事者周辺の関係者や関係団体とのつながりを密に構築していきます。

法人全体の取り組み②

外部研修で地域貢献

地域福祉を担う人材を育成しています

法人主催の研修

京都府内を中心に、地域の福祉人材を育成する観点から、法人職員のみならず外部の福祉職員にも対象を広げて、以下の研修を開催しています。

強度行動障害支援者養成研修

現在、行動障害のある人のうち、いわゆる「強度行動障害」がある人は、自傷、他害行為などにより日常生活に困難が生じているため、福祉施設の受け入れが消極的な傾向があります。一方、障害特性の理解に基づく適切な支援を行うことにより、強度行動障害が低減し、安定した日常生活を送ることができる人も多くいます。
そのため、平成28（2016）年度より京都府内の福祉現場職員を対象に、強度行動障害のある人に対し、適切な支援を行う職員の育成を目的とする強度行動障害支援者養成研修の基礎研修を開講しました。

基礎研修　修了者134名

【講義】
・強度行動障害がある者の基本的理解
・強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識

【演習】
・基本的な情報収集と記録等の共有
・行動障害とコミュニケーションの理解と表出
・行動障害の背景にある特性の理解

介護福祉士

介護職員初任者研修
・受講者13名（うち外部1名）
・修了者12名（うち外部1名）

→ 介護職員実務者研修
・受講者18名（うち外部2名）
・修了者18名（うち外部2名）

→ 介護福祉士として地域で活躍

働きながらの試験勉強を支援するために、受験対策講座も開講しています。

ガイドヘルパー

知的・精神障害者移動支援従業者（ガイドヘルパー）養成研修課程
●京都光華女子大学・・・・受講者50名、修了者49名
●大谷大学・・・・・・・・・・・・受講者45名、修了者42名
●宇治市・・・・・・・・・・・・・・受講者11名、修了者9名
●城陽市・・・・・・・・・・・・・・受講者11名、修了者10名

実践を通して学ぶインターンを大学と連携する

佛教大学の福祉教育開発センターと連携して、実践を通して学ぶインターンシップを実施しました。「障害のある子どもたちのイベント」の一部を学生に企画してもらったり、福祉職を目指す学生のための業界セミナー企画会議でさまざまな意見を出してもらったりなど、「福祉に求められていること」について実践を通して学んでいただきました。今後も、地域の困りごとを法人と地域が連携して解決する方法を考え、実践できる場を提供していきます。

リスクマネジメント

事故や災害への対策に取り組んでいます
本部リスクマネジメント委員会

事故ゼロを目指して

── 事故に関するリスク対策部会

平成30(2018)年度より、事故対策部会では小単位のワーキンググループ制を導入し、部門別に活動しました。

① 調剤薬局による施設内での「薬セット」導入

薬セット業務の標準化、医務担当等の業務軽減、セットミスの減少のため、業者による施設内での薬セットを導入しました。城陽入所5施設、宇治小倉グループホームへの導入を完了しました。引き続き未実施事業所への導入を図ります。

② リスクマネジメント研修

専門家を講師に招いた安全運転講習会を、同内容で4回開催し、109名が受講しました。座学及びマインドチェックとそのフィードバックを行いました。今後も3ケ年計画で実施し、認定者及び受講者数の増加を図ります。

③ 事故報告書の「記入手引き」を作成

全職員が一定基準以上の事故報告書を作成できるよう、どの部分にどのような内容を記載するのかを図式化した「事故報告・業務改善提案書作成手引き」を作成しました。次年度は、法人主催の職員研修にて、手引きを使用し、事故報告書の書き方を指導する立場としての研修の実施を検討しています(採用4年目フォローアップ研修を想定)。

もしもの備えを万全に

── 大規模災害部会・・・・自治連合会などと初めて合同訓練

平成30(2018)年11月、福祉避難所としての機能を有する彩雲館にて、大規模災害を想定した福祉避難所開設訓練を実施しました。オブザーバーとして佛教大学の後藤至功先生をお招きし、城陽市富野校区自治連合会の防災担当の皆様、城陽市社会福祉協議会の皆様にご参加いただき、初めて合同訓練を実施しました。
福祉避難所の機能や役割についての基本的な説明から始まり、段ボールベッドの組み立てや相談窓口の設置等、要配慮者の受け入れ態勢をスムーズに整備する手法について確認し、地域の皆様とともに理解を深める第一歩となりました。今後もさらなる連携強化を図り、いざという時の備えを万全にしていきます。

サービス向上の取り組み

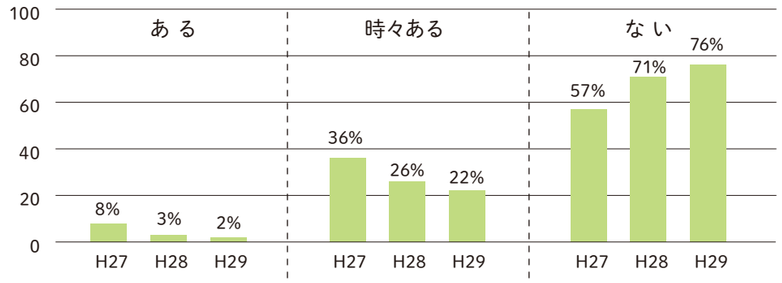
虐待防止委員会のプロジェクトとして実施

虐待防止委員会の中にサービス向上プロジェクトを設け、各事業所が提供するサービスの質や業務内容等を他の施設職員が確認する機関として、客観的かつ専門的な立場から評価します。管理職4名、主任1名、事務局1名、オブザーバーの事務局長で構成され、定期的にプロジェクト会議を設けています。

権利擁護セルフチェック報告書を作成

職員にとって、より良き福祉実践の歩みの一助となることを願って、職員446名に実施したセルフチェックの調査、検証を基に報告書を作成しました。

【Q1】利用者様を呼び捨てや「ニックネーム」、「ちゃん」付けで呼んでしまうことがある。



3年前と比較すると、「ない」が57%→76%と大きく改善が図られています。私たち福祉職には、利用者様の尊厳を尊重し、対等な関係性を築いていくことが求められます。利用者様の呼称が「さん」付けであることは、当法人の絶対的方針であり、その方向性が変節することは決してありません。したがって、呼称は100%の遵守が達成されるまで、その徹底に努めます。

実地調査

平成30(2018)年度は、障害者支援施設 凛で平成31(2019)年2月1日に実地調査を実施しました。

権利擁護・虐待防止研修の企画・実施

城陽エリア　平成31(2019)年3月11日(月)
醍醐エリア　平成31(2019)年3月14日(木)
テーマ:気づきの重要性と職場環境づくり
講　師:油谷 佳典氏(社会福祉法人 永寿福祉会 事業部長/南山城学園 評議員)
参加者:140名(城陽エリア70名・醍醐エリア70名)

個人情報の取り扱いガイドラインを改定
～情報漏洩に対して注意喚起～

「個人情報の適正管理に関する基本事項」における、個人情報の取り扱いに関する基本的なルールについて整理し、平成31(2019)年2月1日に改定しました。日頃、センシティブな情報を取り扱うことの多い福祉現場にあって、ソーシャルメディアなどでの情報活用の有用性とそれに伴うリスクを踏まえ、「個人情報の取り扱いに関するガイドライン」の見直しを図り、情報漏洩に対する注意喚起を改めて講じました。

法人全体の取り組み⑤

多様なキャリアプランと研修制度～働き方 に応じた人事制度～

正規職員制度は働き方に応じて3区分に

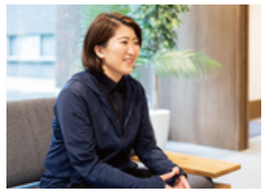
本人の希望やライフスタイルの多様化に合わせて、働き方を選択できるように、
正職員制度は「総合職」「一般職」「時間限定職」の3つの区分を設けています。

総合職　生活支援員、介護職員、相談員などさまざまな職種を経験することで多彩な知見を深め、ステップアップをはかります。法人内でのさまざまなキャリアアップが可能で「単線型」俸給表から、同じく国家公務員俸給表をベースとしつつも「複線型」俸給表を採用しています。

一般職　勤務する地域（城陽エリア・醍醐エリア）を限定して、ワークライフバランスを考えながら、時間にゆとりを持つ働き方です。その上で、専門職としての知識やスキルを深めていくことができるようはかります。4週6休以外に、週休2日または3日も選択可能です。

時間限定職　勤務時間と勤務地を限定できる正規職員です。育児や介護など生活と両立しながら働きたい方に、勤務時間は週30時間、週休2日または3日を選択可能です。また、夜勤の有無も選択できます。

一般職



障害者支援施設 魁 福嶋 葵 支援員

さまざまな研修を受け、施設も各種経験してスキルアップしたいという想いがあり、採用試験を受けました。南山城学園には、知識と技術をしっかり身につけられる環境が整っています。そのことは研修だけではなく、後輩を育てようとしてくれる先輩方など「人」からも実感でき、職種の異なる職員さんとの意見交換も、とても刺激的で仕事に役立てています。そんなふうに、一人ひとりのスキルアップの追い風になることが、学園全体に満ちあふれているように感じます。

時間限定職

介護老人保健施設 煌 向山 隼平 介護員

主夫として働きやすい条件がそろっていることが決め手でした。まったくの未経験でしたが、困ったときにとても相談しやすい職場の雰囲気ができあがっているので、安心して業務に取り組めます。勤務時間が短い分、丁寧かつ迅速に業務を行い、利用者様にもっと喜んでもらえる技術を高めたい。そんな意欲も自然と湧いてきます。家では、炊事、洗濯、保育園の送迎が私の仕事。妻とのバランスをうまく取りながら共働きしています。こうした働き方をしている男性はまだ少ないかと思いますが、誰かの参考になれば嬉しいです。

ジュニア（採用1年目～2年目）
先輩職員や上司の指示のもと職務を遂行する職員

ミドル（採用3年目～5年目）
自立して職務を遂行する職員

シニア（採用6年目以降）
自立して職務を遂行するとともに、高い専門性と組織性をもってチームに貢献する職員

マネジメント
施設長
副施設長
主任

エキスパート
高い専門性をもって後輩の指導にあたるアドバイザー役

1年目
採用時10日
フォローアップ年12回
目標
新規採用職員として、基本的な福祉職員としての知識を得る
マナー、救急救命、防災、権利擁護、法律、社会資源の活用 など

2年目
年6回
目標
利用者様の対応についての視点を学ぶ
個別支援計画の内容を掘り下げていく。利用者様だけを見るのではなく、利用者様を取り巻く環境も見ていくこと など

3年目
年4回
目標
チームワーク
中堅職員として新人教育等も必要になってくる。仲の良い集団としてのチームではなく、組織としてのチーム。職員研修の中で自らの役割は何かなどを認識する。

4年目
年4回
目標
リスクマネジメント
事故を未然に防ぐために、日頃の気づきを活かす方法論を学び、自らの職場にて実践する。

5年目
年4回
目標
問題解決
組織の中で課題となる問題をどのように解決するのか考える。問題や課題の原因・その周りの環境も含め、多面的に考える力を養う。

6年目以降
テーマ別研修、各施設独自の研修など多数実施
人材育成、事例検討、ホスピタリティ、権利擁護、虐待防止 など

エキスパート制度の創設

これまでの「単線型」俸給表から、同じく国家公務員俸給表をベースとしつつも「複線型」俸給表を採用し、3つの俸給表を設けています。これに伴い「俸給表2」から「俸給表3」の昇格のためには、所定の国家資格等を必須とするほか、「エキスパート昇格試験」に合格することを昇格条件としています。平成30（2018）年度に新たな8名を加え、計31名が各部門の主任やリーダーとして活躍しています。

エキスパートに求める要件（コンピテンシー）

1. 法人の基本理念を十分に理解し、法人内ルールの遵守について他の見本となり、組織に浸透させる動きをすること。
2. 特定の分野において、高度な専門性を有し、常に価値を創造し、発信すること。
3. 専門性の向上を常に図りながら、自身のもつ高い技術や専門性を後進に惜しみなく伝え、メンバー個々の能力向上を支援すること。

エキスパート研修の様子

職員交流パーティー

以前は福利厚生の一環として、職員互助会を通じ、職員間の懇親会（メンバーは自由）等に一定の補助金を支出してきました。しかし、職員互助会は正職員のみを会員としていること、法人組織が大きく自分の事業所以外の職員と交流する機会が少ないことから、互助会事業を見直し、全職員を対象とした「職員交流パーティー」を平成29（2017）年より開催しています。10月、11月と2回開催し、約250名が参加しました。ゲームや福引などで大変楽しい時間を過ごしました。

障害者支援施設

円

まどか

「円」は、重度障害のある方が多く入所されており、年齢、障害特性が非常に幅広いため、日常生活のあらゆる場面において利用者様一人ひとりに対応した支援が特に求められる施設です。

施設内リスクの軽減に取り組みました

これまで原因不明の軽微な傷や打ち身があった場合、記録するのみで十分な対策がとれていませんでした。そのため「怪我チェックシート」を作成し、リスクのある状況を洗い出し、利用者様ごとにまとめ、リスク委員会・フロア会議にて原因と対応策について話し合いました。また、利用者様の人数に対し余暇を過ごすスペースの広さが足りず、混雑から起こる事故やトラブルがあったため、各フロアに新たにくつろぎスペースを作りました。こうした対策により、怪我の件数は減少しています。今後は余暇時間のプログラムの検討と、職員の配置の見直しを行い、利用者様が安全に充実した余暇時間を過ごせるように取り組みます。

堆肥の自主生産で地域貢献

利用者様の日中活動の一つとして、堆肥の自主生産を行っています。地域の公共施設の刈り草を堆肥化し、循環型社会への取り組みに貢献しています。堆肥を寄付つき商品として販売し、収益の一部を「城陽みどりのまちづくり基金」に寄付するなど、堆肥を通して地域創生基金・城陽緑化活動に参加しています。

第三者評価の結果をもとにサービスの質の向上に努めました

前年度に受診した第三者評価にてアドバイスされた次の3項目の改善に取り組みました。

①マニュアルの更新・管理システムの構築

②情報共有手段の見直し

③支援計画を実施したことが分かるケース記録の記載方法の見直し

サービス向上委員会を組織して改善を図り、サービス全般の質の向上を進めました。

次年度に向けて

利用者様の障害特性が多様で、支援を行う上で幅広い知識・技量が必要な施設であるため、職員の質の向上を図るとともに、個別支援計画・アセスメントのシステム改善を実施し、利用者様の満足度向上に繋げます。

事業内容：生活介護60名、施設入所60名、短期入所4名		
利用者層：重度知的障害者	所在地：城陽市富野狼谷（本園）	施設長：松井 一真

障害者支援施設

和

なごみ

「和」は、障害のある高齢の方々が生活されています。平均年齢が70歳を超える状況の中で、安心・安全で充実した生活を送っていただけるよう努めています。

高齢対応施設内で機能分化し、支援を手厚く

「和」にある2つの寮の機能分化（榮寮：重介護型、榮寮：機能維持型）を検討する再編プラン2年目として、事業所運営の総点検と改善活動を中心に取り組みました。

職員体制の見直し、榮寮の改修計画を含め、引き続き検討を進めます。

「ほんず活動」で地域貢献

利用者様が「ほんず活動」に取り組み3年目となりました。「ほんず」とは、地元の伝統産業である碾茶作りにおいて、「よしず」で日光の当たり方を調整する手法のことです。その「よしず」作りを、利用者様の日中活動として行っています。

生産能力の向上により、平成30（2018）年度は650枚（前年比144%）のよしずを作成し納品しました。茶農家からも好評をいただき、伝統技法の継承の一翼を担うことができました。

地場産業への貢献として継続してきたこの活動も、成熟期としての結果を残すことができ、携わる利用者様や職員の自信にも繋がっています。

第三者評価でも、地場産業への貢献が高く評価されました

9月に第三者評価を受診しました。全62項目中、到達度を表す評価は、A評価60件、B評価2件でした。B評価の項目は「苦情解決」及び「プライバシーへの配慮」でした。プライバシーについては、間仕切りやカーテン等の設置を検討しています。

評価機関からの総評として、支援計画の一連のプロセス・利用者自治会活動の支援・地場産業への貢献等独自の取り組みを高く評価していただきました。

次年度に向けて

高齢障害者への支援を提供する事業所として必要な課題整理を進めるにあたり、「重度化への対応」「支援技術の研鑽」「専門性の向上」に重点をおいた運営を進めます。また、第三者評価において「B」となった2つの項目への改善計画を立て課題解決を図ります。

事業内容：生活介護79名、施設入所79名、短期入所4名		
利用者層：知的障害のある高齢者	所在地：城陽市富野狼谷（本園）	施設長：山口 嘉信

障害者支援施設

魁

さきがけ

「魁」では、「地域で働きながら暮らすこと」を目標に、日中に作業活動を取り入れ、就労スキルの向上や責任感・やりがいに繋がることを支援しています。

ADL（日常生活動作）低下予防プログラムでニーズに寄り添う

作業への参加が難しい利用者様を対象としたADL(日常生活動作)低下予防プログラムにおいて、就労中心ではなくリハビリや楽しみに重きを置いた活動班を設定しました。利用者様のニーズに基づいた活動を、ほぼ毎日実施することができました。

子ども食堂で共生共助の地域づくり

地域の皆様や社会福祉協議会等と連携し、毎月第2木曜の夜、地域福祉支援センター城陽内の「すまいる」にて、ダイニングあんさんぶる（子ども食堂）を企画・運営しています。毎回、10名程度の子ども達が参加し、食事やボランティアスタッフとの遊び等で楽しく交流しています。開始から3年経過し、共生共助の地域づくりの一環として定着した取り組みとなっています。

就労継続支援B型の平均工賃の向上を目指して

2万円以上の平均工賃が支給できるよう、売上向上及び経費の見直しに取り組みましたが、新たな収益を生むには至りませんでした。
次年度は、農耕作業班の販路を確保して安定した収入を得るとともに、収益性の高い内職の導入を目指します。また新たに外部作業の営業活動も行います。

次年度に向けて

農耕作業班が収穫した野菜の販路拡大や、園内作業班の作業開拓を行いつつ、メンバーの再編成や計画的な活動により収支のバランスを改善し、工賃の向上に繋げます。
また、多発する自然災害において、職員とともに利用者様も支援活動ができるようボランティア登録を行い、近隣の防災訓練等への参加を目指します。

事業内容：生活介護54名、就労継続A型11名、就労継続B型15名、施設入所60名、短期入所1名	
利用者層：就労を希望する障害者	所在地：城陽市富野狼谷（本園）
施設長：小関 徹史	

障害者支援施設

翼

つばさ

「翼」は、知的に重い障害と自閉症等の発達障害、行動上の課題を併せ持つ方を主な対象とした施設です。

非常時の避難方法の確立を目指して

見通しが持ちにくい火災等の非常時を想定し、利用者様が安全に避難できる方法を確立するため、視覚的な情報を活用して急な変化を伝える個別プログラム設定に取り組みました。
定期的に実施している施設全体での避難誘導訓練に加えて、利用者様の特性に合わせた誘導方法を模索し、法人主催の実践研究発表会のテーマとしてまとめました。今後も継続的に実施し、より定着させていきます。

業務内容の見直しと整理

施設の課題である日常的な業務過多傾向について、利用者様の身体状況等の変化に応じた職員配置や業務内容の見直しと定期的な振り返りを実施しました。
今後は業務の効率化をさらに進めるとともに、「暮らしの場」としての入所施設のあり方を改めて問い直し、重点的に取り組んでいきます。

入所施設での支援実績を地域に還元

行政、支援機関との連携のもと、支援困難ケースの見立てや助言を行うため、「うぃる」と連携し地域療育支援事業として他法人を訪問しました。また緊急ケースも含む短期入所の受け入れを行い、地域の福祉課題の解決に取り組みました。

次年度に向けて

施設の機能充実を図るために取り組んできた業務の効率化をさらに進めるとともに、暮らしの場としての入所施設のあり方を改めて問い直し、施設内に「普通の暮らし」の風景を作ることに重点的に取り組んでいきます。

事業内容：生活介護35名、施設入所35名、短期入所2名	
利用者層：重度知的障害者	所在地：城陽市観音堂甲畑
施設長：西田 武志（[知的障害者デイサービスセンターあっぷ]センター長 兼務）	

障害者支援施設

凛

りん

「凛」は、障害が重くとも適切な支えがあれば地域の中で暮らせる方々が、その力を精一杯発揮しながら地域社会の一員として生きることを支援しています。

定番の活動を見直し、日中活動の充実へ

利用者様にとって日中活動が生活の軸として充実したものになって欲しいとの思いから、また利用者様の「仕事がしたい」というニーズに答えるため、月曜～金曜の午前・午後に日中活動がある環境を作りました。

ぷちぽんとkitchen＋farmの店舗力を強化

「凛」に併設するカフェ「ぷちぽんとkitchen＋farm」において、来客者の声を店舗運営に反映させるため、アンケート調査を年3回実施しました。また、作付け計画に基づき栽培した野菜の店頭販売を強化し、さらに合同ミーティングを毎月開催するなど、店舗力の強化を図った結果、目標であった一日平均来客数20名を達成しました。また店頭販売の売り上げは70,200円と、前年度の33,900円から倍増し、お野菜カフェとしての認識が浸透してきました。
今後はカフェ部門と連携し、来客者に対してだけでなく、地域障害者の働く場としてのカフェを活用してもらえるよう発信していきます。

職員の専門性を高める研修を実施

2ヶ月に一人、計6名の利用者様のPEP-3（自閉症・発達障害児教育診断検査）を実施し、障害特性を把握し適切な支援へと繋ぎました。またPEP-3検査を反映しコミュニケーションに特化した新アセスメントフォームを導入しました。PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）導入研修を計3回開催し、職員の専門性の向上を図りました。

次年度に向けて

ここ数年間で積み上げてきたエビデンスに基づく利用者支援、地域コミュニティの活性化を継続・発展させつつ、法人理念「利用者様の尊厳を守り、幸福を追求する」に立ち返り、入所施設という枠を超えた“生活の拠点”として、また“生活者”としての視点を軸にした取り組みを実践していきます。

事業内容：生活介護49名、施設入所40名、短期入所2名		
利用者層：重度知的障害者	所在地：城陽市富野東田部	施設長：下前 拓也

障害者支援施設

光

ひかり

「光」の利用者様は、重度、最重度の知的障害があり、うち7割が自閉症を併せ持っています。意思疎通や意思決定の制約も抱えやすいため、個別支援の充実に努めています。

利用者様が自分の思いを伝えられるようPECSにiPadを活用

以前よりPECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）の手法を取り入れてきましたが、平成30（2018）年度は、このPECSにiPadを活用し、新たに、利用者様自らが絵カードを作成し、そのカードを使って自分の思いや訴えを表明してもらうという取り組みに力を入れました。
法人主催の実践研究発表会で、PECSとQOLをテーマに事例発表を行い、優秀賞を受賞しました。

第三者評価を受診し、61項目がA評価でした

3月に第三者評価を受診し、到達度を表す評価は、A評価61件、B評価1件でした。B評価の項目は「苦情を申し出た障害のある本人や家族に配慮した上で、苦情内容及び解決方法、結果等を公表している」であり、この結果を踏まえ、サービスの質の向上・改善に取り組んでいきます。

職員の資質向上を目指して

対人援助の価値、知識、技術に磨きをかけ、福祉専門職の資質、専門性を向上させることを目的として、法人主催の強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）の企画運営に携わりました。受講者は計134名で、うち法人職員49名（「光」職員7名）と、多くの職員が受講しました。

次年度に向けて

施設現場では、人材確保の観点からも、今後ますます職員の多様な働き方への対応が求められます。そうした動向に備え、業務マニュアル・個別支援計画の各様式の見直しを図ります。また、臭いのしない綺麗な施設環境づくりは、利用者様の権利擁護の実践の一つであると位置付け、一層の強化・徹底を図ります。

事業内容：生活介護42名、施設入所42名、短期入所3名	
利用者層：重度知的障害者	所在地：京都市伏見区日野（醍醐）
施設長：奥村 一貴（障害事業局長＜醍醐＞兼務）	

障害者支援施設 輝 かがやき

「輝」は、若年層から高齢者まで、幅広い年齢層の知的障害のある利用者様の生活支援を担っています。

近隣の保育所と交流

平成30(2018)年度は、地域ニーズにアンテナを張り、事業所が有する機能を地域に還元すべく、地域貢献・交流活動の新企画や、地域の受け皿としての短期入所床の有効活用等について積極的に取り組みました。特に地域貢献・交流活動については、地域の保育所や小学校との連携をより強固にするための土台作りができました。

前年度までの春日野小学校との交流取り組みの成果と課題を踏まえ、平成30(2018)年度は辰巳保育所との連携を新たに開拓し、10月に園児を招いて芋掘り交流会を開催しました。利用者様と地域の子ども達との良好な関係を構築し、相互理解を深めることができました。

コスト管理で無駄を省く

日用品経費一覧表を用いて、月次毎に増減の要因を分析し、無駄がないかの点検を行い、コスト管理の一層の強化に取り組みました。その結果、平成30(2018)年度総計4,011,225円と、前年度(4,382,935円)から8.5%減を達成しました。今後も前年度比較資料を作成し、分析を行いながら、無駄を省く取り組みを進めます。

リスクマネジメントの強化

日常起こり得る事故に対し、職員個々の発生時対応能力及び危険予知等の気づく力を高めるための施設内研修を実施しました。(5月「てんかん」、6月「緊急時対応①(ロールプレイング)」、8月「リスクマネジメント」、10月「感染症(ノロウィルス等)」、12月「緊急時対応②(ロールプレイング)」、1月「嚥下」)

平成30(2018)年度に起きた施設内事故において、初動のミスは皆無でした。

次年度に向けて

地域貢献・地域交流活動について、引き続き、地域の保育所や小学校と連携し、相互理解を深める取り組みを実施し、共生共助の地域づくりを推進していきます。

施設内の支援の質の向上については、権利擁護意識の更なる醸成が必要であるため、その中核となる「意思決定支援」の考え方について、実例を通し学ぶ機会を創出し、人権擁護意識の定着、向上を図ります。

事業内容:生活介護58名、施設入所58名、短期入所7名、児童日中一時支援事業所ちぇりー	
利用者層:知的障害のある高齢者、知的障害児	所在地:京都市伏見区日野(醍醐)
施設長:村地 正浩	

知的障害者グループホーム(城陽エリア)

「グループホーム」は、社会への適応能力を身につけ、地域での生活が可能になった方々が暮らす場です。地域の皆様に温かく見守っていただきながら安心して暮らしています。

和太鼓コンサートで地域交流

毎年開催している和太鼓コンサートにおいて、新たにケータリング喫茶を併設しました。日頃お世話になっている長池地区の12名の方にご参加いただき、利用者様との交流を図ることができました。

グループホーム運営体制の再編

平成30(2018)年度は、既存のうち5ホームの老朽化に伴う新ホームへの再編・移転に向け、①新マニュアルの策定、②計画相談・個別支援計画の見直し、③利用者様の居室空間や生活基盤の整備等、新体制への準備を進めてきました。新施設への移行を次年度に控え、安定した運営を目標に、あらゆる角度から着実に整備を進めることができました。

セルフチェックなどにより、自己啓発を促進

年度初めに各職員が個人の目標を設定し、前期・後期の年2回、セルフチェック及び管理職との個人面談を実施しました。目標設定により、意識して支援に努められるよう働きかけることができました。またセルフチェックから職員の意識の向上が見られました。

次年度に向けて

新施設創設に伴い、スムーズな移行を進めるとともに、移行後の環境整備、利用者支援、職員教育等、計画に沿い着実に実施していきます。また、地域との交流や貢献事業も推し進め、サービス向上に努めます。

事業内容:共同生活援助 42名		
利用者層:知的障害者	所在地:城陽市内7ヶ所	室長:大矢 真弓

入所施設

介護老人保健施設 煌 きらめき

「煌」は、利用者様それぞれの自立意欲を心身のリハビリによって喚起し、地域社会の一員として活力のある生活を続けていただけるようお手伝いしています。

介護予防ができる地域づくりに貢献

毎週土曜、機能訓練スペースを開放しており、毎回長池長寿会より15名前後の方に参加いただいています。地域の皆様との関係性が深まるとともに、フレイル(高齢者の筋力や活動が低下する状態)予防にも繋がっています。また、地域の集会所にて出張出前介護教室を開催し、地域の皆様へ介護に関するノウハウを伝える取り組みを行いました。

権利擁護の強化

施設内不適切ケア予防のため、全職員を対象として、権利擁護に関する研修を実施しました(人権・プライバシー保護・身体拘束等について)。常に人権意識を持って業務にあたるよう、今後も継続して実施していきます。

安心安全なサービス提供のために

利用者様に安心安全なサービスを提供できるよう、関連委員会を中心に、リスクマネジメントの徹底を図りました。服薬については、新規採用職員を中心にマニュアル遵守の徹底を図るとともに、毎月リスク委員による抜き打ちチェックを実施しました。結果、誤与薬事故はゼロ件でした。今後も継続して取り組んでいきます。

次年度に向けて

介護報酬改定において、介護老人保健施設の有する在宅復帰機能だけでなく、在宅生活支援機能も評価される仕組みが新設されました。「煌」においても、継続して機能の充実・強化を図っていきます。また、地域高齢者の様々なニーズに対応できるよう、フロアの機能分化を検討し、体制整備を進めていきます。

事業内容:介護老人保健施設100名、通所リハビリ30名		
利用者層:高齢者	所在地:城陽市長池五社ヶ谷	事業統括:吉岡 弘樹

通所事業

知的障害者デイサービスセンター あっぷ

「あっぷ」は、知的障害のある方が、地域で安定した生活を営めるよう、日中活動を中心とした支援を行っているデイサービスセンターです。

利用者様の意向を軸にしたサービス提供

利用者様の意思を可能な限り尊重した日中の過ごし方を提供するため、利用者自治会「あっぷの会」を発足しました。「イベント内容」や「選択メニュー」など、施設利用に関する身近な事柄を話し合っていただく機会を設定しました。

安定した施設運営を目指して

ここ数年の課題であった稼働率について、現状に見合った利用定員(25名から20名へ)に再設定するとともに、関係機関との連携に重きを置き、支援学校や相談事業所等を介し、多くの方にご利用いただけるよう努めました。結果、平成30(2018)年度の平均年間稼働率は99.3%となりました。

活動プログラムの多様化

保護者アンケートより、作業活動を希望する声が多かったため、新しい作業を導入しました。治具の活用や工程整理により、多くの利用者様が携わることができるようになりました。
今後は、さらに個別に支援できるプログラムを検討していきます。

次年度に向けて

前年度の取り組みを踏襲しながら、職員行動規範の見直しや第三者評価を活用したサービス内容の振り返りを行い、サービスの質とそれを支える職員の質の向上に取り組んでいきます。

事業内容:生活介護20名	
利用者層:知的障害者	所在地:城陽市観音堂甲畑
センター長:西田 武志([障害者支援施設 翼]施設長 兼務)	

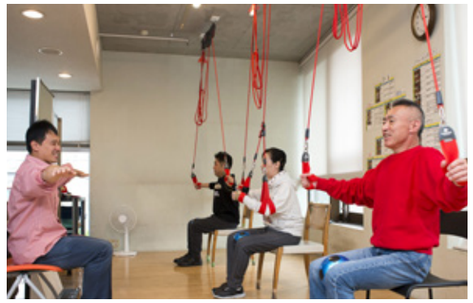
地域福祉支援センター

城陽（通所部門）

高齢者デイサービスセンター「すまいる」と、身体障害者デイサービスセンター「すいんぐ」を運営し、地域社会での生活を継続できるよう、支援しています。

菜園活動で認知症ケア

「すまいる」では、高齢の方の身体機能の維持向上のため、リハビリ職を中心に、機能訓練や心身を活性化するレクリエーションを行っています。平成30（2018）年度は、認知症ケアの一環として、新たにプランターでの菜園活動を実施しました。認知症高齢者の手続き記憶（作物の育て方、包丁の手さばき等）が改善されたほか、ご家族より「家庭での役割が増えた」とのご報告をいただく等の事例がありました。



運動プログラムの充実

「すいんぐ」は、身体に障害のある方を対象に、機能訓練や生活支援等の活動を行っています。
レッドコードプログラムを中心に、ADL体操や個別メニューの運動プログラムの充実を図り、年間を通し毎日実施しました。その結果、身体機能の維持向上を目的とした多くの皆様のご利用に繋がりました。

第三者評価を受診しました

「すいんぐ」で第三者評価を受診するにあたり、支援及び業務の統一化を図るため、日常業務マニュアル（ルーティン、配膳、片付け、入浴等）を作成し、新規採用職員に配布しました。これにより、業務手順を標準化することができ、入職者のOJTにも活用することができました。
第三者評価では、体力測定などの評価を踏まえたサービス提供内容について高評価を受けることができました。（A評価60項目、B評価2項目）

次年度に向けて

住み慣れた地域での暮らしの継続に向け、「すまいる」は生活機能訓練、認知症ケアの向上を図ります。「すいんぐ」では、中途障害の方の在宅復帰を支援する機能訓練強化型のサービス提供を目指します。また、新たに近隣保育園との定期交流に取り組み、地域交流及び利用者様の活動充実と満足度の向上を図ります。

事業内容：身体障害者デイサービスセンターすいんぐ　生活介護20名 高齢者デイサービスセンターすまいる　通所介護25名	
利用者層：［すいんぐ］身体障害者 ［すまいる］65歳以上の高齢者（第1号被保険者）、40歳以上65歳未満の特定疾病罹患者（第2号被保険者）	
所在地：城陽市枇杷庄	センター長：山代 浩史（障害事業局長＜城陽＞兼務）

地域福祉支援センター

城陽（相談部門）

山城北圏域の中核を担う障害者相談事業所として、療育及び発達障害者が対象の「うぃる」と、障害者に総合的に対応する「はーもにぃ」を運営するほか、居宅介護支援事業所「すまいる」ではケアマネジメント事業を行っています。

事業開始から2年目 サザン京都の認知度高まる

「サザン京都」は、①若年無業者層の職業的自立を目指すための就労支援（地域若者サポートステーション京都南）、②生活困窮者層が就労へ向かうための支援（生活困窮者等就労準備支援事業）、③引きこもりの方の社会的自立支援（引きこもり訪問応援「チーム絆」山城南相談室）、④中間的就労支援（京都府認定就労訓練事業）を行っています。
事業を開始して2年が経過し、認知度も高まっています。地域若者サポートステーション事業では、ハローワークや各種関係機関に働きかけ、新規登録者数141名（前年度32名）、就職者数61名（同6名）と、より多くの方に利用していただけるようになりました。

発達障害理解セミナーを開催

平成30（2018）年11月18日、当法人が主催する「彩雲祭」にて、地域住民を対象に「発達障害理解セミナー」を開催し、70名が参加しました。講師の笹森理恵氏は、ご自身や3人のお子様も発達障害があり、これまでの体験談や発達障害の特性等を当事者の視点から分かりやすくお話いただきました。

相談員の1年目育成スキームを作成

障害のある方とご家族の相談対応や地域療育支援・サービス等利用計画の作成、障害支援区分認定調査などを市町村からの委託により実施している「うぃる」と「はーもにぃ」が合同定期ミーティングを新設。情報共有や進捗管理により一体運営化が進み、チーム支援体制の強化を図ることができました。また、新規採用相談員の1年目育成スキームを作成し、相談員として必要なスキルや知識習得の見える化を進めました。

次年度に向けて

障害相談事業の多様化・増加するニーズに対応するため、チーム支援による相談業務体制の構築を目指し、法人理念「共生共助の地域づくり」に向けて取り組みます。
また、相談支援員の育成プログラムの作成に取り組みます。

事業内容：障害児（者）地域療育支援センターうぃる、山城北圏域障害者総合相談支援センターうぃる、 障害者生活支援センターはーもにぃ、居宅介護支援事業所すまいる、若年者等就労支援拠点サザン京都	
利用者層：［うぃる］障害児（者）　［はーもにぃ］障害者 ［すまいる］65歳以上の高齢者（第1号被保険者）・40歳以上65歳未満の特定疾病罹患者（第2号被保険者） ［サザン京都］39歳以下の引きこもりや生活困窮者	
所 在 地 ：［うぃる］［はーもにぃ］［すまいる］城陽市枇杷庄　［サザン京都］城陽市寺田	
センター長：山代 浩史（障害事業局長＜城陽＞兼務）	

地域福祉支援センター

醍醐（通所部門）

「わこう」は、主に知的障害のある方を対象に、日中に安心して活動できる場を提供しています。

多くの方にご利用いただくために

安定的な運営のため平均稼働率90%を目指していますが、平成30（2018）年度は平均稼働率87.8%と目標達成には到りませんでした。

今後も利用者様や地域のニーズの把握に努めるとともに、近隣の総合支援学校など関係機関との連携を一層密に行い、多くの方に利用していただけるよう取り組みます。

子ども食堂を開催しています

子ども食堂「ダイニング あんさんぶる わこう」を、毎月第3木曜の夜（全10回）、夏・冬休みは日中（全2回）、計12回実施しました。毎回ほぼ定員一杯の子ども達の参加があり、地域及び職員ボランティアの協力のもと安定した運営ができました。

平成30（2018）年度は、目標であった入所施設の利用者様や学生ボランティアの参加も実現しました。

毎月、子ども食堂実行委員会にて打合せを実施し、2月には「子供の居場所作りシンポジウム」に参加しました。

障害福祉の理解と関心が深まるよう努めており、次年度は地域の高齢者にも参加を呼びかけ、多世代が交流できる居場所作りを進めます。

次年度に向けて

稼働率の維持・向上に向け、関係機関への働きかけや連携の強化を図ります。さらに、より働きやすい職場環境を作るため、業務内容を見直し負担の軽減や効率化を行います。また、3年目を迎えた「ダイニング あんさんぶる わこう」のより一層の充実を図り、地域の高齢者も含めた多世代の交流かつ包括的な場を構築していきます。

事業内容：障害者デイサービスセンターわこう　生活介護35名		
利用者層：すべての障害者	所在地：京都市伏見区日野	センター長：小林 稔

地域福祉支援センター

醍醐（相談部門）

在宅で生活する障害のある方の相談支援を行う「りーふ」と、矯正施設を出所して福祉的な支援を必要とする方の支援を行う「ふぃっと」を運営しています。

在宅で暮らす障害のある方の生活を支援

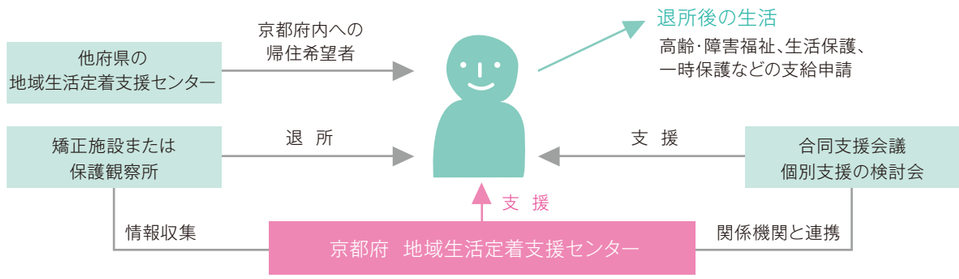
「りーふ」では相談支援業務として平成30（2018）年度、障害支援区分認定調査を1,888件実施し、サービス等利用計画を1,170件作成しました。

「ふぃっと」では、他職種の関係機関と連携して矯正施設出所者の行先や福祉サービスの調整に当たっていますが、その複雑化や多様性から、既存ネットワークの強化や新たなネットワーク構築が求められています。平成30(2018)年度は、更生保護・生活困窮など様々なネットワーク等に参加しました。

地域住民や関係機関に向けて研修・啓発活動を実施

関係機関等の理解を深めるため、「ふぃっと」主催の研修を年4回（事業所向け：9・12・3月、一般向け：2月）実施しました。また、触法障害者専門部会でも研修を年4回（ロールプレイ研修：7・8・9月、「弁護士にきいてみよう」：3月）実施しました。

京都府地域生活定着支援センターふぃっとの支援の流れ



①コーディネート業務（退所前から）
身元引受人の不在などで自立困難な高齢者・障害者に、ニーズ把握、受入先のあっせん、各種申請を行う。

②フォローアップ業務（退所後）
退所後、福祉施設などを利用している方を対象に、面談、施設側への助言などを行う。

③相談支援業務（退所後）
「懲役または禁錮刑の執行」「保護処分」を受けて矯正施設を退所した高齢者・障害者に助言や必要な支援を行う。

次年度に向けて

「事業基盤の強化」を最重点課題として掲げ、地域で暮らす障害者や高齢者等、福祉を必要とする方々が、安心・安全に自分らしく日常生活を送ることができるよう、信頼関係の強化や他職種との連携及び新たなネットワークの構築を行います。また矯正施設出所者の現状などについての研修・啓発活動を積極的に進めます。

事業内容：障害児（者）相談支援事業所りーふ、京都府地域生活定着支援センターふぃっと	
利用者層：［りーふ］すべての障害者　［ふぃっと］触法障害・高齢者	
所在地：京都市伏見区日野	センター長：小林 稔

地域福祉支援センター

宇治小倉

グループホーム・ショートステイ・就労移行支援事業所・計画相談・「障害者就業・生活支援センターはぴねす」を併設した複合施設です。

平成30(2018)年6月、宇治市に新しくオープンしました

「宇治小倉ホーム」(グループホーム)は、年度内に17名の入居を目指し軌道に乗せるべく、マニュアルの整備や職員の事前指導を進めてきましたが、15名の入居となりました。

ショートステイは、開設当初からニーズが高く、コンスタントな利用に繋がりました。

「就労移行支援事業所さぴゅいえ」は、カフェと食品加工を訓練活動としています。「さぴゅいえ」は、フランス語で「寄り添う」という意味があります。7月より稼働し、年度末には4名の利用となりました。就労アセスメントサービスは3件、支援学校からの実習受け入れ3件で、次年度からの利用予約に繋がっています。

「障害者支援センターじゃすと」(計画相談)は、9月より稼働し、平成30(2018)年度の計画相談の利用は計11名でした。宇治市内の既存のネットワークへの参画や、支援学校卒業生と福祉サービス事業所との調整等を行いました。

Café S' APPUYER (カフェ さぴゅいえ)にて親子イベント(絵本カフェ)開催

カフェを広く知ってもらうため、また親子の交流を深めてもらうため、10月より2ケ月に一度、カフェの定休日を利用して親子の絵本カフェを開催しました。クッキー作りやクリスマスリース作りなど、親子で取り組めるイベントを企画実施しました。

次年度に向けて

各事業において稼働率を100%にするための営業とサービスの質の向上に取り組みます。就労移行(食品加工)は危険要因が多い環境であるため、訓練生が安全に作業できるよう、職員のスキルアップのための研修計画を立て実施します。
また、カフェ定休日の親子イベント(絵本カフェ)の継続に加え、地域の高齢者との交流イベントを企画し実施します。

事業内容:宇治小倉ホーム(共同生活援助)18名〈うち1床は体験利用専用〉、短期入所2名、就労移行支援事業所さぴゅいえ20名、障害者支援センターじゃすと(計画相談)		
利用者層:知的障害者	所在地:宇治市宇治蔭山	センター長:日置 貞義

障害者就業・生活支援センター

はぴねす

「はぴねす」は、京都労働局と京都府より委託された山城北圏域の障害者の就労相談支援窓口です。6月の「地域福祉支援センター宇治小倉」開所に伴い、近鉄大久保駅近くから移転しました。

過去最高の就職・実習件数を達成

平成30(2018)年度の就職や実習斡旋等の実績は、就職75件・実習57件・新規登録82名・相談8,675件でした。これまでの丁寧な関わりで繋がった企業や特例子会社が複数名を雇用されたこともあり、就職及び実習については開所以来最高の件数となりました。

今後も相談員が相互にフォローし合える事業所づくりを目指し、ケース共有の時間を増やしていきます。

職場定着支援の強化

平成30(2018)年度は離職者が58名と多く、職場定着の目標が達成できませんでした。離職については、ステップアップするための転職も1割ありましたが、体調不良や人間関係での悩みによるものが5割弱あるため、引き続き職場訪問や在職者サロンなどを開催し、悩みや職場不適応を早期発見していきます。

次年度に向けて

地域貢献の一環として、障害者雇用啓発の取り組みを継続して実施します。星和はぴねす21(星和電機㈱と共同取組)を企画実施し、これまでの取り組みとともに、CSR活動との連携を地域へ広めていきます。

事業内容:相談支援	
利用者層:就労を希望する身体・知的・精神・発達障害者および難病疾患者	
所在地:宇治市宇治蔭山	センター長:日置 貞義

もりの詩保育園
かぜの詩・そらの詩・はなの詩保育園

母体保育園「もりの詩保育園」、小規模保育園「かぜの詩・そらの詩・はなの詩保育園」は、家庭的な温もりのある保育を目指して運営しています。

事業開始から4年目を迎えて

事業開始から4年目を迎え、安定した運営を行うことができています。「もりの詩保育園」では定員を充足し、異年齢保育の取り組みが充実しました。
保育内容については、大きな事故や保護者様からのクレームもなく、安定した保育を行うことができました。

事故防止対策の徹底

園児の事故等を防止するため、保育内容の点検やチェックリストによる事故防止対策の徹底を図りました。
行事の際には、下見を入念に行うとともに、予想される子ども達の行動について職員間で話し合い、安全確保を最優先に取り組みました。
6月には、プール事故及び他の事故防止に関するリスクマネジメント研修を行い、中京消防署の協力のもと、保育士全体を対象とした救命救急講習を行いました。
今後も、散歩時における事故防止対策や災害時における体制について見直しを図ります。

高校生の保育体験実習を実施しました

「もりの詩保育園」において、公益社団法人京都市保育園連盟と連携し、高校生の夏休みを利用した保育体験実習を実施しました。園児と高校生が触れ合い、保育事業の活性化と高校生の子育てに対する興味関心を促す機会となりました。

次年度に向けて

令和元(2019)年5月、大阪府三島郡島本町にて19名定員の小規模保育園を新たに開園するにあたり、より一層保育内容の充実を図るとともに、保護者様や地域住民の皆様の期待に応じた事業展開を行います。
事業実施にあたっては園児の安心・安全確保に十分留意し、異年齢保育の推進や幼保連携認定子ども園の実施を視野に入れた体制や環境の整備を行うとともに、既存事業の基盤強化に取り組みます。

事業内容:もりの詩保育園60名、かぜの詩保育園12名、そらの詩保育園12名、はなの詩保育園12名		
利用者層:乳児・幼児	所在地:京都市中京区・下京区	保育事業局長:水野 正人
[もりの詩保育園] 園長:山﨑 里美　[かぜの詩保育園・そらの詩保育園・はなの詩保育園] 事業統括:藤原 淳		

平成30(2018)年度 法人決算報告

単位:千円

貸借対照表	
流動資産	2,043,899
固定資産	6,811,466
資産合計	8,855,365
流動負債	770,024
固定負債	870,184
純資産の部	7,215,157
負債及び純資産合計	8,855,365

事業活動計算書	
【サービス活動増減の部】	
サービス活動収益計(1)	3,667,559
(運営収益)	3,656,731
(寄附金収益)	2,830
(その他収益)	7,998
サービス活動費用計(2)	3,500,501
(人件費)	2,181,282
(事務費・事業費)	1,131,691
(減価償却費)	186,900
(その他費用)	628
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	167,058
【サービス活動外増減の部】	
サービス活動外収益計(4)	15,225
サービス活動外費用計(5)	22,527
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	△ 7,302
経常増減差額(7)=(3)+(6)	159,756
【特別増減の部】	
特別収益計(8)	360,727
特別費用計(9)	76,475
特別増減差額(10)=(8)-(9)	284,252
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	444,008
前期繰越活動増減差額(12)	3,513,149
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	3,957,157
次期繰越活動増減差額(14)=(13)	3,957,157

地域の皆様と利用者様をつなぐ架け橋

南山城学園のカフェや商品をご紹介します。

ぷちぽんとkitchen+farm

自家農園で作った野菜を使用。

11:00〜16:30 (LO 16:00) ランチタイム 11:00〜14:00
㊡日曜、月曜
城陽市富野東田部69番地1 障害者支援施設「凛」内
TEL 0774-56-7881

カフェ ぷらんたん

テラス席もある一軒家。

10:00〜16:30 ランチタイム 11:00〜14:00
㊡第1・3月曜、日曜・祝日(第3日曜日は営業)
京都市伏見区日野西川頬4-2
TEL 075-575-2413

カフェ さぴゅいえ

低農薬野菜のお料理を提供。

10:00〜15:00 (LO 14:30) ランチタイム 11:00〜14:00
㊡日曜・祝日
宇治市宇治蔭山9-11 地域福祉支援センター宇治小倉内
TEL 0774-23-0338

堆肥

障害者支援施設「円」

枯れ草を利用して作った堆肥は、近隣農家さんに人気です!収益の一部を「みどりのまちづくり基金」に寄付。

低農薬野菜

「ぷちぽんとファーム」(京田辺市)
障害者支援施設「魁」

カフェ「ぷちぽんとkitchen+farm」で提供するほか、京都市内のノウフクマルシェやクロスピア久御山にて販売。

クッキー

障害者支援施設「翼」

プロの指導を受けリニューアル。法人の保護者会などで販売。お土産などに少量からでも注文を受け付けています。

アロマキャンドル

障害者支援施設「光」

株式会社モンサンミッシェルとのコラボ商品として製作。

さをり織り・縫製・木工等商品

障害者支援施設「和」
身体障害者デイサービスセンター「すいんぐ」
知的障害者デイサービスセンター「あっぷ」

ポーチ、ティッシュカバー、プランターカバー、座布団など。京都府聴覚言語障害センター内「あんだんて」(JR城陽駅徒歩5分)やバザー等にて販売。